

衛星放送の市場調査 および 受信環境について

2020年7月8日

(一社) 放送サービス高度化推進協会 (A-PAB)



報告内容

A-PABは、新4K8K衛星放送に関して様々な周知広報活動を展開してきたが、今回、実施した下記2つの調査を通して新4K8K衛星放送の普及課題が改めて明らかになった。

【報告内容】

1. 新4K8K衛星放送に関する市場調査 (WEB)
2. 新4K8K衛星放送の受信可能世帯数の推計
(受信設備の対応状況)
3. 今後の課題

1. 新4K8K衛星放送に関する 市場調査（WEB）

調査概要

1.市場調査

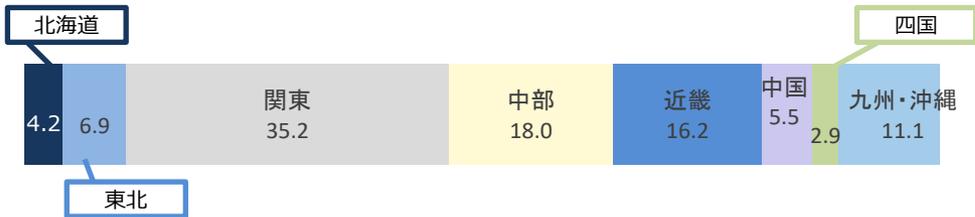
- ◆ **調査会社** 株式会社 ビデオリサーチ
- ◆ **調査目的** BS放送、新4K8K衛星放送並びにその関連事項について、一般の方々の認知・理解度を測る調査を実施することにより、サービスの周知広報に資する市場データを収集する。
- ◆ **調査手法** WEB調査
- ◆ **調査対象エリア** 全国47都道府県
- ◆ **調査対象者** 上記エリアに居住する男女20歳～69歳
※【対象外】本人及び家族が、マスコミ・調査会社・広告会社に
従事している者
- ◆ **調査期間** 2020年5月22日（金）～ 24日（日）
- ◆ **サンプルサイズ** 計5,000人
※住民基本台帳の性年代構成に基づいて割付

回答者プロフィール (2020年5月調査)

1. 市場調査

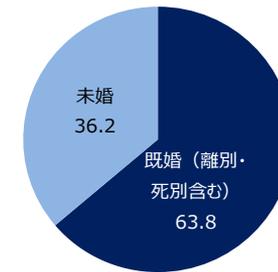
◆居住地構成

【N=全体】 (%)



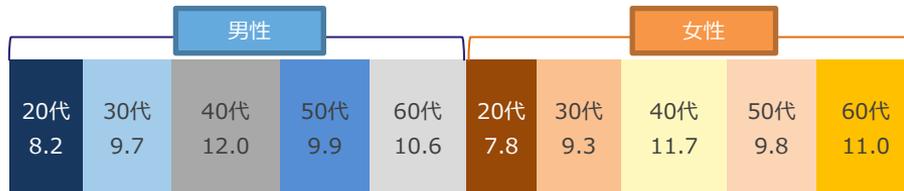
◆未既婚

【N=全体】 (%)



◆性年齢構成

【N=全体】 (%)



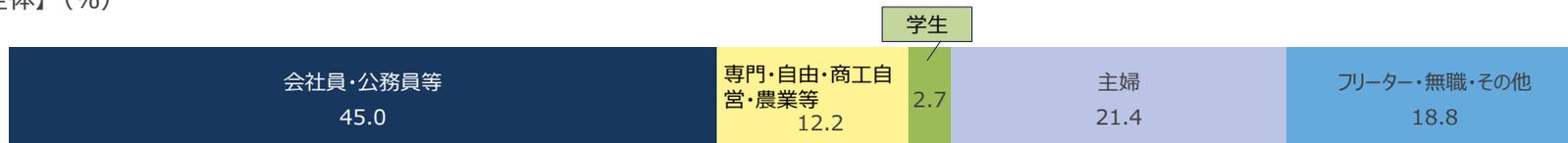
◆住居形態

【N=全体】 (%)



◆職業

【N=全体】 (%)



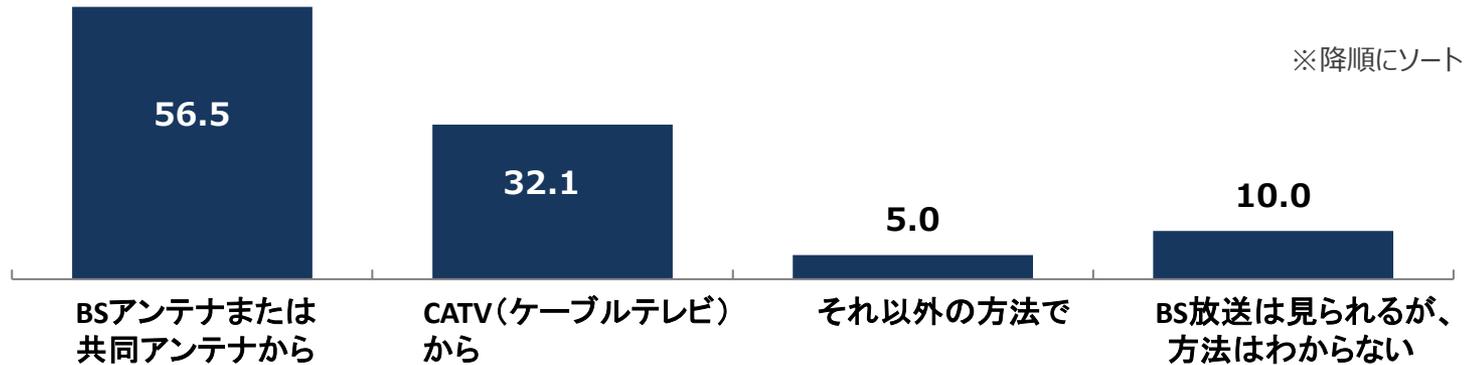
BS放送視聴状況

1.市場調査

◆BS受信方法

【n=BS/CS視聴可能者 2,748人】 (%)

BS放送の受信方法は、アンテナ経由が約半数、次いでケーブルテレビ。



◆BS放送視聴頻度

BS放送は7割が週1日以上視聴。「ほとんど毎日見る」が26%で最も多い。「ほとんど視聴しない」は2割。



4K(8K)テレビ普及状況

1.市場調査

4K(8K)テレビ所有者は19年7月から増加。中でも4Kチューナー内蔵テレビの所有者が増加。

◆4K(8K)テレビ所有状況/欲しいか

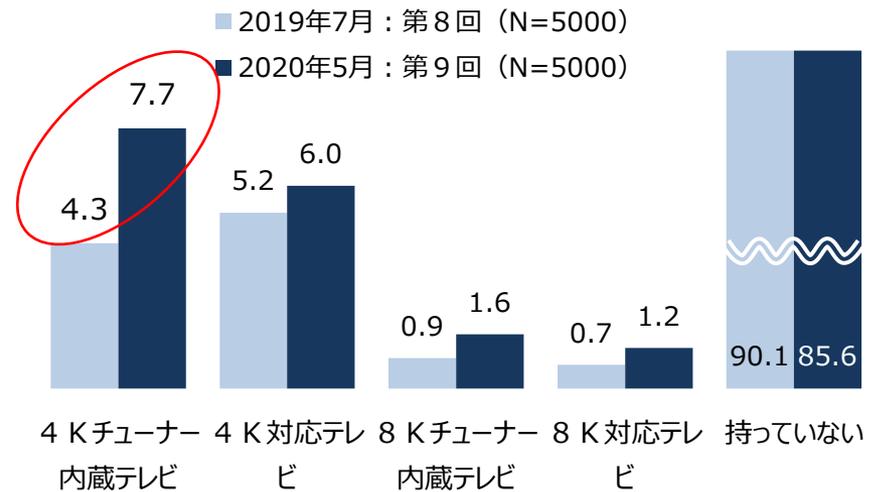
【N=全体】 (%)



◆4K(8K)テレビ所有内訳

【N=全体】 (%) ※複数回答可

※全体 (第9回) の降順にソート



4K対応テレビ、8K対応テレビ・・・チューナー内蔵でない

4K(8K)テレビ満足度

1.市場調査

4K(8K)テレビの満足度は8割を超える。
 満足理由は「きれいな映像」が最も多く他に機能の良さなど。不満理由はコンテンツ、操作性など。

◆4K(8K)テレビ満足度

[n=4K(8K)テレビ所有者 719人] (%)



◆4K(8K)テレビ満足の理由

映像の美しさ

- ・きれいな映像と大迫力画面
- ・画像が鮮明で美しい。現実を忘れさせてくれる

機能性の良さ

- ・インターネットの動画などが簡単に視聴でき、音声での検索も簡単

割安感

- ・4Kチューナー内蔵なのに安かった
- ・思ったよりも予算内で買った

◆4K(8K)テレビ不満の理由

コンテンツの少なさ

- ・番組がほとんどBS放送と一緒になので物足りない。映像の良さが出るようもっといろいろな番組を放送してほしい
- ・買ったのはいいが興味ある番組をやっていない

価格

- ・高い時期に買ったから

チューナーが無い

- ・チューナー内蔵を買えばよかった

映像の良さを感じられない

- ・もう少し画質が良いと思っていた

※自由回答より。理由分類として多い順。記載された回答を抜粋、省略した部分がある。

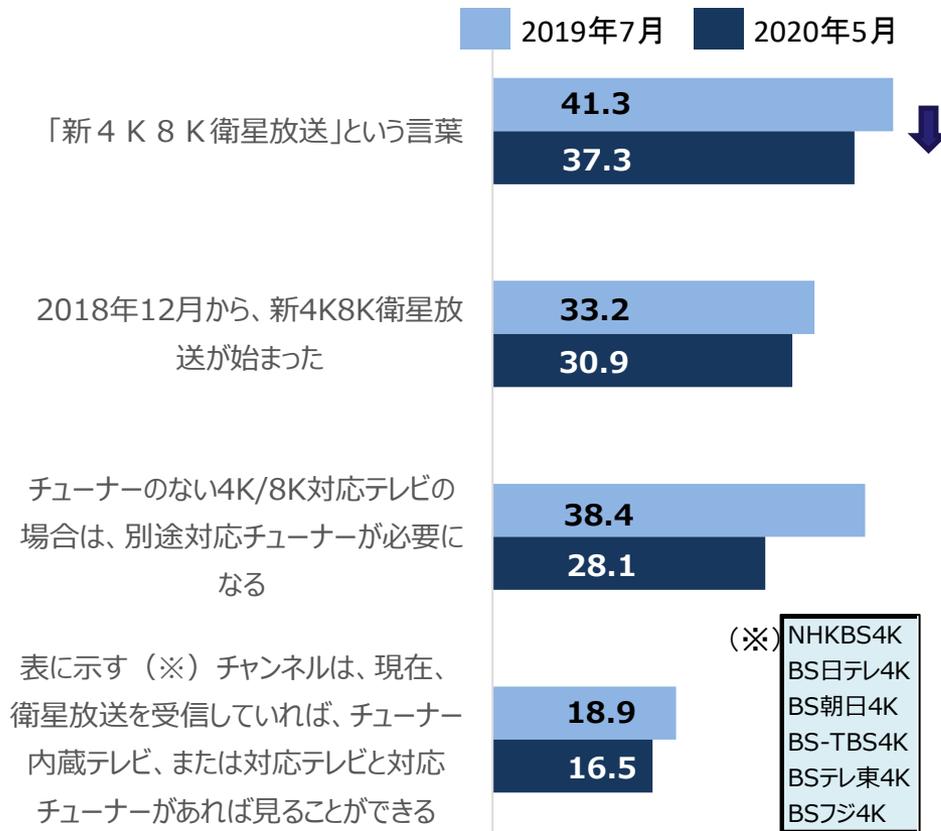
新4K8K衛星放送についての理解度

1.市場調査

新4K8K衛星放送に関する理解度は総じて19年7月より減少。直接受信以外の視聴方法を認知している人は2~3割で、「知らない」が約5割。

◆新4K8K衛星放送についての理解

【N=全体】(%) 「知っていた」の割合



◆直接受信以外の視聴方法認知

【N=全体】(%)

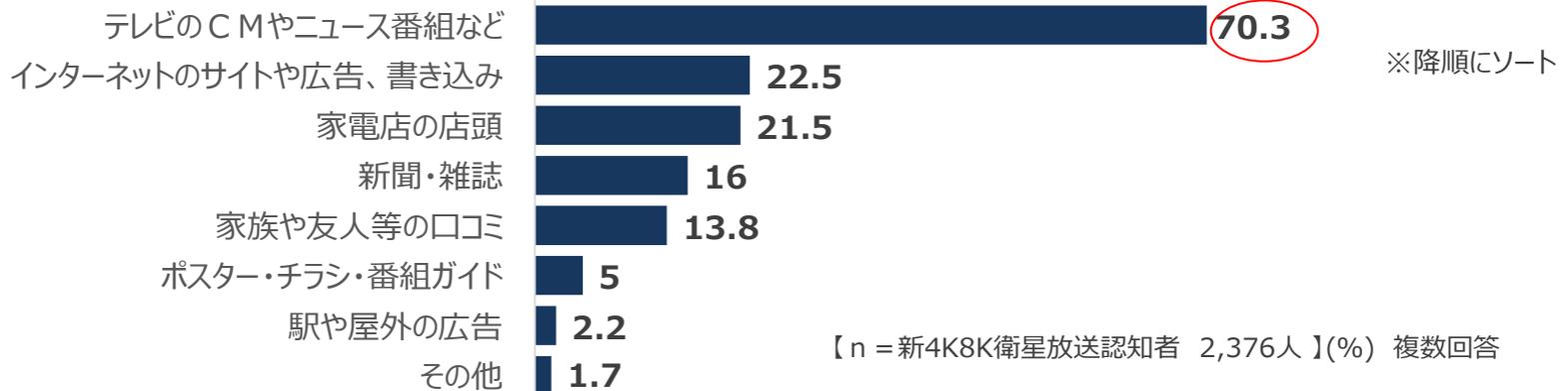


新4K8K衛星放送についての理解度

1.市場調査

◆新4K8K衛星放送認知経路

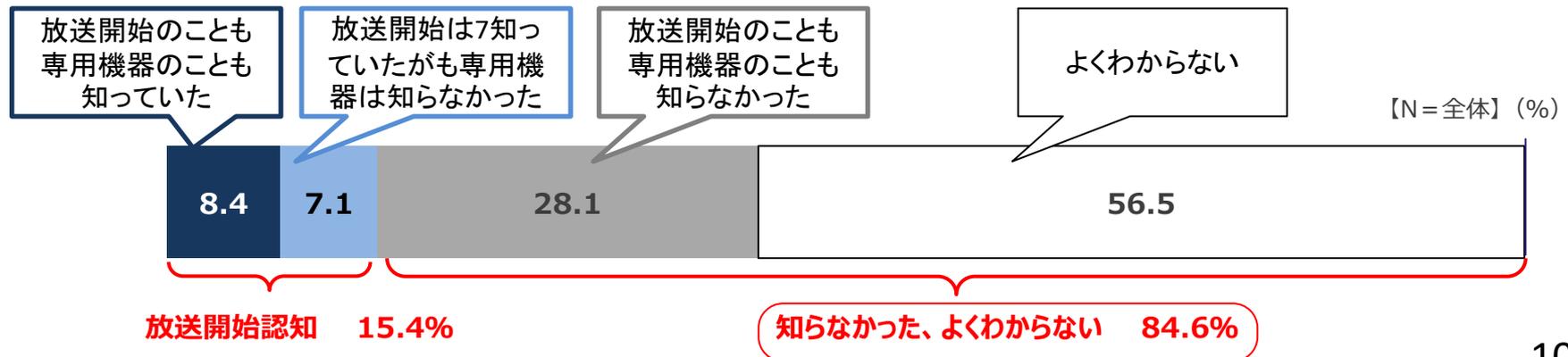
新4K8K衛星放送の認知経路はテレビが中心。



◆左旋円偏波に関する認知

「左旋円偏波」の放送開始認知は15%、「知らない」「よくわからない」が合計85%。

2018年の新4K8K衛星放送の開始にあたり、新たな電波（「左旋円偏波」と言います）で複数のチャンネルが開始され、この放送を受信するには、専用のアンテナやチューナー等が必要となることを……



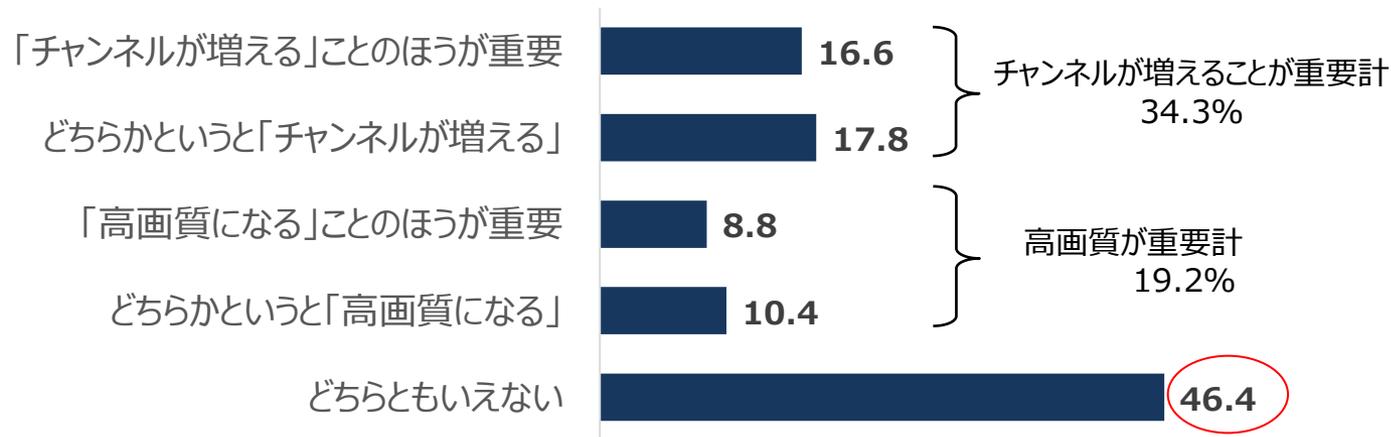
これからの衛星放送への期待

1.市場調査

これからのBS放送への期待について、「多チャンネル化」と「高画質化」とでは、「多チャンネル化」が3割強、「高画質化」が約2割。チャンネル増や高画質番組視聴に必要な設備の導入について、「費用が安ければ」との条件付きを含め「導入したい」が4割。

◆多チャンネルと画質の意向

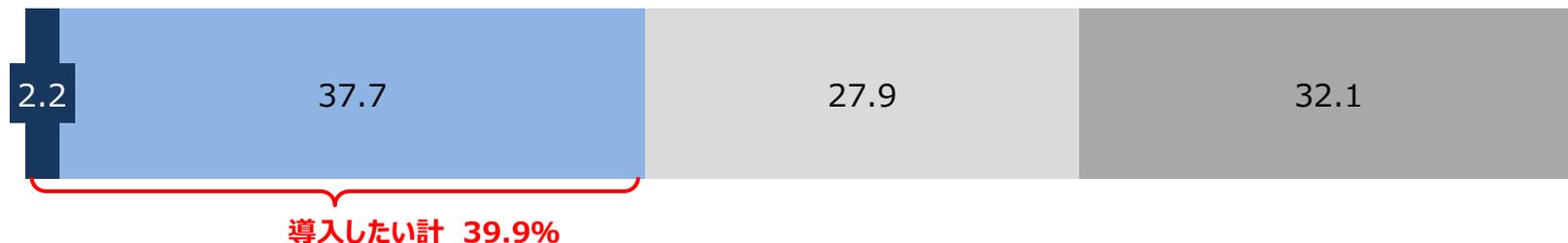
【N=全体】 (%)



◆チャンネル増や高画質の番組視聴のための設備導入の意欲

【N=全体】 (%)

■ 費用に関わらず導入したい ■ 費用が安ければ導入したい ■ 費用に関わらず導入したくない ■ どちらともいえない



調査結果のポイント

1.市場調査

- BS放送を視聴可能な人では、「ほとんど毎日見る」が26%、週1日以上見る人は合わせて67%。
- 4Kチューナー内蔵テレビをはじめとして4K(8K)テレビの所有は増加しつつあり、所有者の満足度は高い。
- 新4K8K衛星放送に関する認知・理解度は、総じて高いとは言えない。
- 中でも新4K8K衛星放送（特に左旋）の受信方法に関連する理解は低めとなっている。
- これからのBS放送への期待については、「チャンネル増」が約3割、「高画質化」が約2割であったが、「どちらともいえない」が約半数。また、そのための設備導入への意欲がある人は約4割であった。

2. 新4K8K衛星放送の 受信可能世帯数の推計 (受信設備の対応状況)

4K8K受信可能世帯数の推計にあたって

2. 受信可能世帯数

- 4K8K受信可能世帯数とは、新4K8K衛星放送を、**市販受信機や専用機器**（専用チューナ、STB、アップコンバータ等）を**使えば受信可能な環境にある世帯数**※。
- この世帯数の推計は、業界団体の公表データや調査結果、およびメーカー各社へのヒアリング、これまでの未来像WGの報告等をもとに行った。（概要は次頁参照）
- 本報告では、受信方法が複数の場合（パラボラアンテナでの受信と同時にケーブルテレビにも加入している等）も含めて推定しているため、**世帯数には重複がある**。

※ 4K8K受信可能世帯数は、2020年3月末時点の推計値として算出

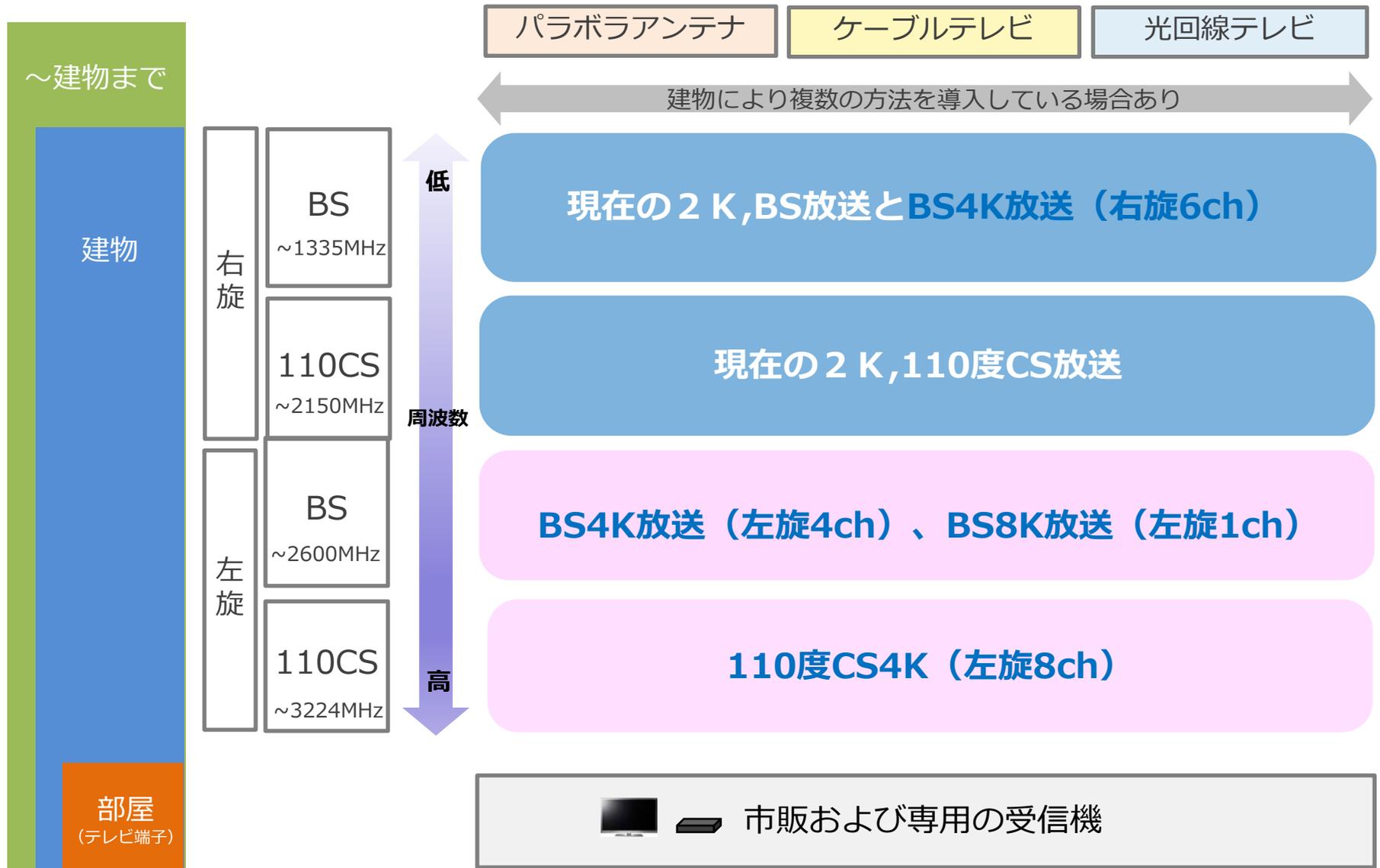
4K8K受信可能世帯数の推計方法

2. 受信可能世帯数

受信方法	推計方法
パラボラアンテナ	(一社) 電子情報技術産業協会などからヒアリングしたアンテナ出荷累計から、有効口径別の出荷比率、BSアンテナ継続使用割合を加味し、総務省 住宅・土地統計調査をもとに総世帯数や住宅残存率を掛け合わせて算出。
ケーブルテレビ (光ファイバー・STBを使う方式)	(一社) 日本ケーブルテレビ連盟が実施した加盟事業者向けアンケート(2020年1月)および、宅内設備の周波数対応状況(日本CATV技術協会による4K8K衛星IF伝送システムに関する調査研究報告書)から推定。
光回線テレビ (フレッツ・IP方式)	スカパーJ-SAT社による公表値を採用。 全世帯数のうち、衛星放送をIP方式で受信している割合から推定。(NHK 受信に関する実態調査、総務省住宅・土地統計調査結果)

4K 8K 受信可能世帯数 (受信方法別) 整理図

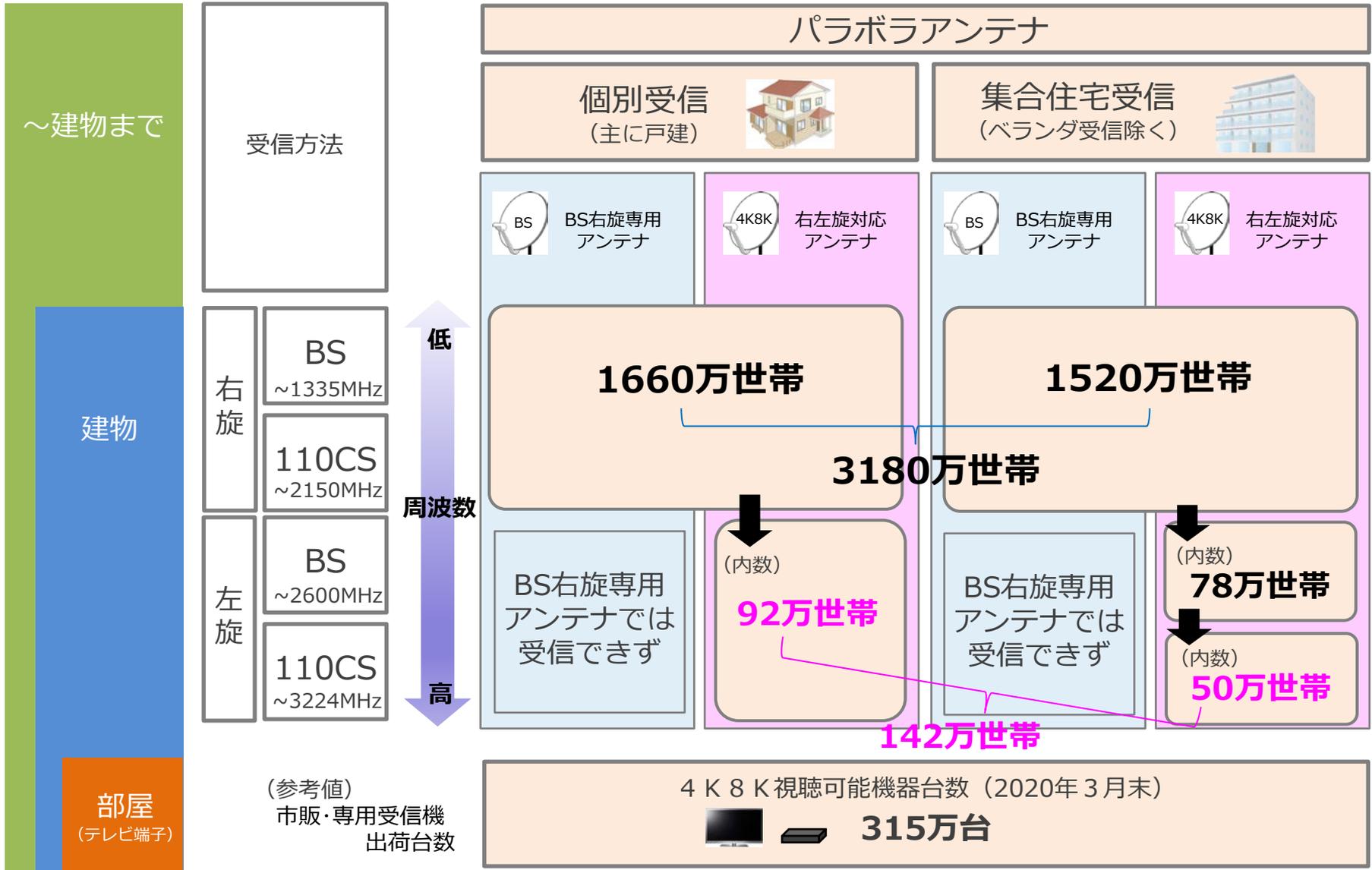
2. 受信可能世帯数



4K8K受信可能世帯数推計

(パラボラアンテナ受信)

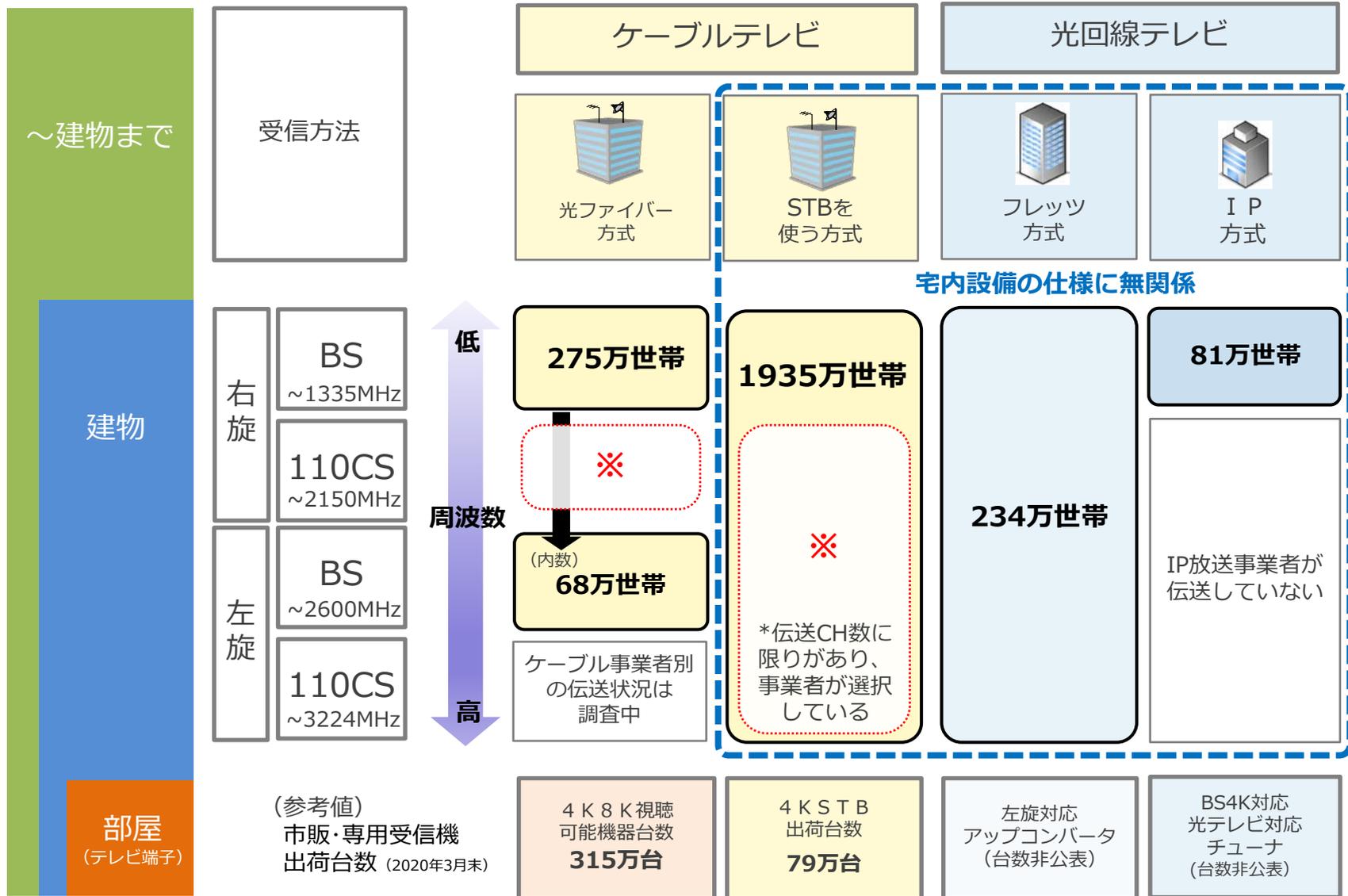
2. 受信可能世帯数



4K8K受信可能世帯数推計

(ケーブルテレビ・光回線テレビ受信)

2.受信可能世帯数



(※) ケーブルテレビ事業者によって110度CS右左旋放送CH、BS左旋CHの再放送有無が異なる。
また8K対応のSTBは未発売。(2020.6時点)

3. 今後の課題

今後の課題

◆ 今回実施した調査により、以下の点を改めて確認した。

<市場調査>

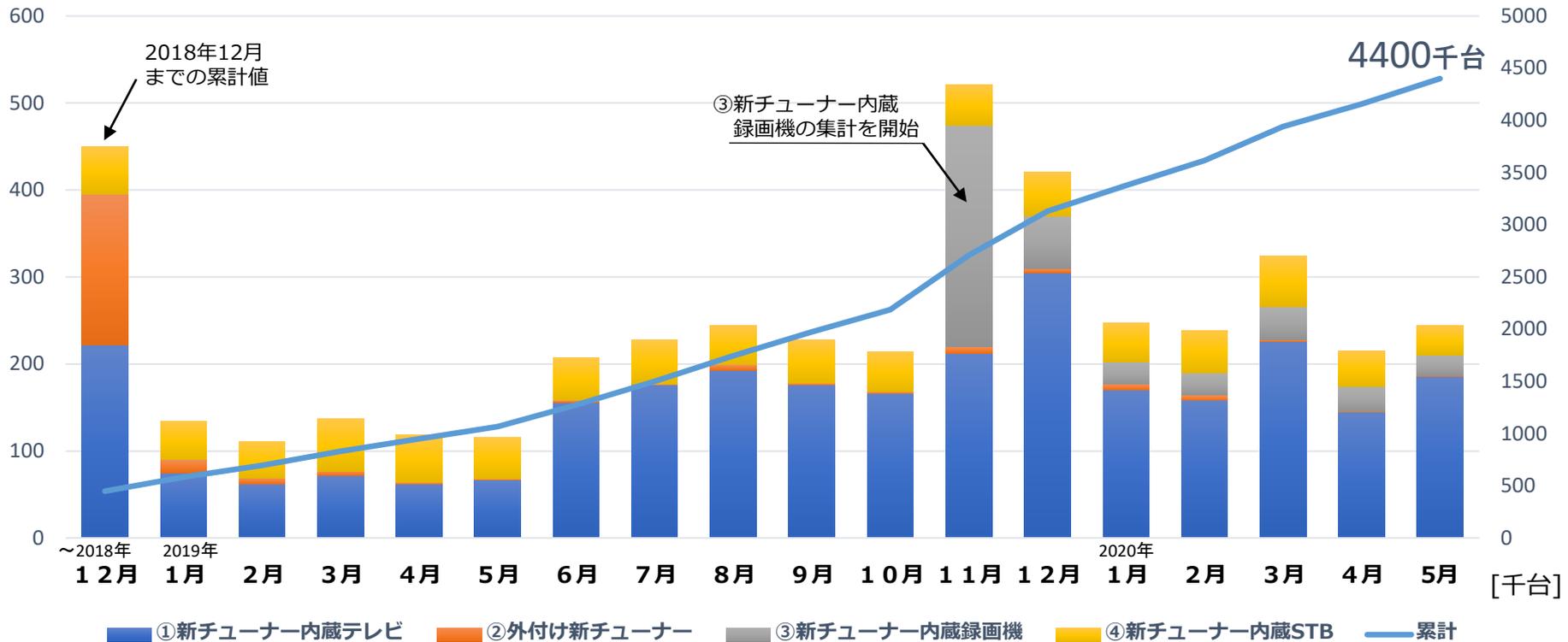
- ・ 4 K 8 K テレビの満足度は高く、視聴経験者からの評価は高い。
- ・ 新 4 K 8 K 衛星放送に関する認知度は昨年 7 月より微減。
とりわけ“左旋”の受信設備に関する理解度が低い。
- ・ 今後の衛星放送への設備導入意欲も存在する。

<受信可能世帯数の推計>

- ・ “右旋”では受信環境の面から大きな問題は見られない。
- ・ 一方、“左旋”では「戸建」も「集合住宅」も普及が進んでいない。
- ・ 特に「既存の集合住宅」は、設備改修や合意形成に大きな壁があり、ここにターゲットを絞る普及策が必要。
- ・ 4 K 8 K の一体的な普及には、直接受信の設備改修のほか、設備改修を必要としない「ケーブルテレビ (S T B 方式)」や「光回線テレビのフレッツ方式」の普及・連携を強化する必要。

參考資料

新4K8K衛星放送 視聴可能機器台数



新4K8K衛星放送 視聴可能機器台数は
440万台を突破 (2020年5月末)

※ ①, ②, ③ : JEITA発表出荷台数、④ : JCTAヒアリングによる設置増台数

(JEITA: 一般社団法人 電子情報技術産業協会 JCTA: 一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟)

千台未満を四捨五入し表記しているため累計や合計が表記数字の計と一致しないことがあります。

衛星放送の未来像に関するWG (第7回) (事務局資料より)

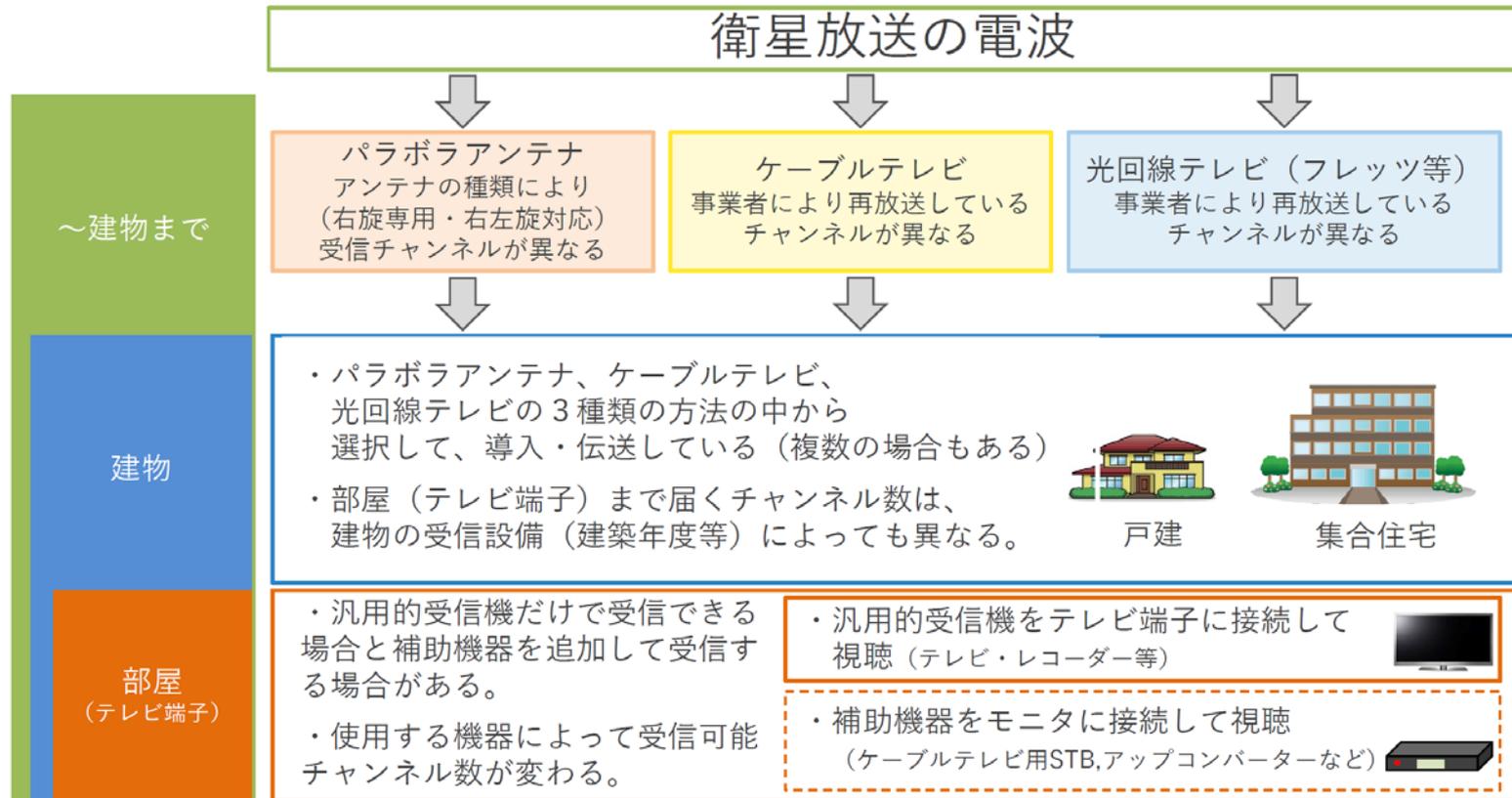
衛星放送の未来像に関するWG(第7回)資料(抜粋)

資料8-1

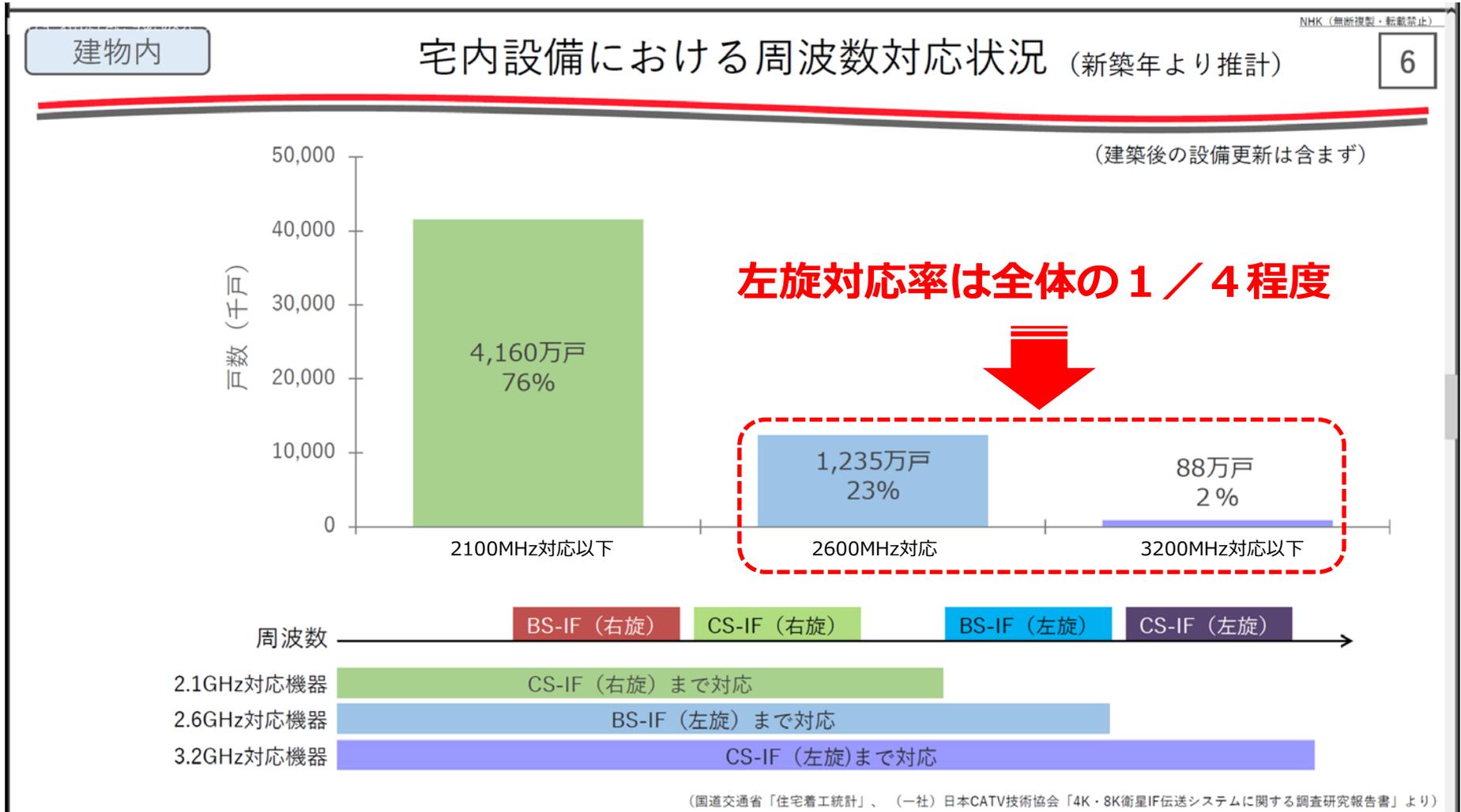
新4K8K衛星放送の受信環境

- 衛星放送は、アンテナによる**直接受信のほか、ケーブルテレビや光回線テレビ経由による視聴も可能**である。
- このため、**それぞれの視聴方法に係る現状を把握した上で、各世帯の受信形態に応じたきめ細やかな対応が求められる。**

衛星放送の電波



衛星放送の未来像に関するWG (第8回) (NHK資料より)



衛星放送 上限周波数 拡大の歴史 (テレビ受信向上委員会資料より作成)

1990年

2000年

2010年

2020年

BSアナログ放送
(~1335MHz)

BS/CSデジタル放送
(~2150MHz)

CS左旋の利用計画
(~2600MHz)

4K8Kの到来
(~3224MHz)

BS
右旋

110度CS
右旋

BS
左旋

110度CS
左旋

現在のBS放送(2K)

現在の110CS放送(2K)

1032 ~ 1489

1595 ~ 2071

2224 ~ 2680

2749 ~

3224 [MHz]

1335MHz

2150MHz

2602MHz

3224MHz

1990年頃までの建築物



2000年頃までの建築物 (2150MHzまで対応)



2006年以降の建築物 (2602MHzまで対応)



ここ2~3年の建築物 (3224MHzまで対応)

全ての新4K8K衛星放送まで対応



引用・参考文献

出典	引用・参考文献
(一社) 電子情報技術産業協会	統計データ
(一社) 日本CATV技術協会	4K8K衛星IF伝送システムに関する調査 研究報告書
(一社) 日本ケーブルテレビ連盟	日本ケーブルテレビ連盟 加盟事業者向け アンケート
総務省	平成30年度 住宅・土地統計調査
国土交通省	住宅着工統計
NHK	衛星放送の未来像に関するWG資料 (第8回) (受信実態に関する調査)